

中学校第1学年 国語科学習指導案

1. 単元名と単元目標（光村図書）

単元5 いにしへの心に触れる～古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える

【古文・解説】月に思う

2. 指導目標

【関心・意欲・態度】「百人一首の世界」を楽しみ、古典文学に興味・関心を持たせる。

＜評価規準＞「百人一首」に興味・関心を持ち、学習コンテンツの様々なページを積極的に調べようとしている。

【読む・伝国】和歌に描かれた四季の自然に対する当時の人々の感じ方、考え方を捉え、古典に対する見方を広げさせる。

＜評価規準＞学習コンテンツの様々な内容を理解して、自分なりの感想をもてる。

【話す・聞く】「百人一首」の和歌に出会うことで気づいた、新たな美しさや自分自身の心のありようについて友だちと話し合わせる。

＜評価規準＞相手に伝わりやすいように工夫して発表したり、自分の考え方と比較して発表内容を聞いたりすることができる。

【書く・言語】興味を持った「百人一首」の和歌を学習コンテンツで調べ、推薦文にまとめて交流させる。

＜評価＞歌人の生涯や歌の背景について調べ、その人物像や好きな歌の魅力についてまとめることができる。

3. コンテンツ活用により期待できる効果

- ・コンテンツやワークシートを用いて、同じテーマの和歌を読み比べたり、歌人のエピソードを知ったりすることで、古人が育んできた美意識について理解を深める。また、現代の人々に通じる思いにふれることができる。
- ・「百人一首」の様々な情報を取捨選択し、テーマを決めて文章をまとめる活動につなげることができる。教科書で紹介されている和歌だけでなく、さらに多くの和歌に親しむきっかけになる。

4. 指導計画（全4時間）

時	学習内容	●コンテンツ ★ワークシートの活用
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「月に思う」を通読して、古典が現代まで読み継がれてきたことや、日本人の美意識について知る。 ・百人一首の成り立ちについて知る。藤原定家が平安時代から鎌倉時代の歌集から百人の歌人の歌を選んだものであり、ほぼ年代順に並んでいること、歌かるたとして江戸時代から現代まで受け継がれてきた伝統的な遊びであることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人が四季それぞれの自然の美しさを大切にしてきたこと、その美意識が平安時代に生まれたことを知る。 P143の79番・藤原頭輔の歌の解説文を読んで、古人の月のとらえ方を知り、共感したことを発表する。 ・「百人一首」については小学校での学習やかると会などで触れたことのある生徒も多い。すでに知っていることや好きな和歌を発表させてもよい。 ・かるたの競技人口は、百万人といわれ、海外の人々にも親しまれていることにふれる。 ※小学校で学習する百人一首の歌人は18番・藤原敏行、5番・猿丸大夫、7番・安倍仲麿（小3）15番・光孝天皇、21番・素性法師（小4）一線は百人一首の歌を学習。
2 ・ 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・月を題材にした「百人一首」の4首7番・安倍仲麿、30番・壬生忠岑、36番・清原深養父、79番・藤原頭輔の歌を音読し、それぞれの歌の意味を理解する。 ・それぞれの歌の共通点や相違点について考える。 	<p>★ワークシート1「百人一首の月の歌を味わおう」 （展開によってA4版、B5版、短縮版を選択する。）</p> <p>●HOME「1和歌の味わい」7.30.36.79番 現代語訳や鑑賞、写真を提示して、歌の意味や出来た背景について理解を深めさせる。</p> <p>●HOME「2歌人紹介」7.30.36.79番 についても紹介しておく。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「百人一首の世界」コンテンツの使い方について知る。 	<p>★百人一首の世界コンテンツ利用のてびき</p> <p>●HOME「1和歌の味わい」7.30.36.79番</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・月をテーマとした4首の歌にかかわるページを閲覧しながらワークシート1にメモを取る。 ・4首の中で、一番好きな歌を一首選び、伝えたい内容を決め、ワークシートに推薦文を書く。 	<p>※余裕のある生徒には、同種の和歌やINDEXをクリックして、4首以外の月の歌について調べさせてもよい。</p> <p>●HOME「2 歌人紹介」7. 30. 36. 79 番 ●HOME「5 和歌技法」●HOME「6 生活文化」</p> <p>4人の歌人のエピソードや歌の表現技法についても調べ、歌人の人柄や、歌に込めた思いを考えさせる。選んだ歌の魅力を340字から400字にまとめさせる。</p> <p>★ワークシート2「私の好きな月の歌」</p> <p>※関連する教科書教材 <1年>P180 根拠を明確にして魅力を伝えよう</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦文の交流会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな月の歌の推薦文をグループや全体で交流し、自分が選んだ歌以外についても理解を深める。

5. 本時の指導過程（50分）

教科目標

- ・コンテンツを通して、月を題材にした歌を豊かに読み、古典文学を身近に感じることができる。
- ・「百人一首」の和歌や歌人のページを調べることで、当時の人々の喜びや悲しみ、生き方や考え方を理解することができる。
- ・歌の世界を通して、自然の美しさや人の心を巧みに表現した言葉を知り、語彙を豊かにすることができる。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1. 前時の学習についての確認 教科書P145の図版を見て、日本人の美意識や、百人一首の成り立ちについて確認する。	「雪月花」という言葉を思い出させ、日本人が昔から自然に託して自分の心を歌にしてきたことを押さえる。
展 開	「百人一首」に月を詠んだ歌は何首あるだろう。	月…12首(7. 21. 23. 30. 31. 36. 57. 59. 68. 79. 81. 86番) ★ワークシート1「百人一首の月の歌を味わおう」(A4版かB5版か短縮版を選択)の配布
	2. 「百人一首の世界」コンテンツを使って、12首の月の歌の中から、教科書に紹介されている79番・藤原頭輔、7番・安倍仲麿、36番・清原深養父、30番・壬生忠岑の歌について知る。	歌の意味を理解させ、必要に応じて時代背景などを説明する。
	4首の歌の共通点や相違点について考えよう。	●HOME「1 和歌の味わい」INDEXの活用 次時の調べ学習のために、基本的なコンテンツの使い方を説明しながら7番から順番に提示していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・朗詠を聞きながら、ワークシートの現代語訳から和歌の意味を知る。 ・和歌のゆかりの地や生活、行事、注目する言葉から和歌のイメージをつかむ。 	⑤よみ(競技かるた部の高校生の朗詠であることを伝える。)を聞かせ、歌の読み方を確認させる。 ⑩写真4枚を活用＝7番・安倍仲麿 ⑩写真4枚を活用＝30番・壬生忠岑 ⑦鑑賞と⑩写真を活用＝36番・清原深養父 ⑦鑑賞を活用＝79番・藤原頭輔
	3. 4首の月の歌の共通点と相違点についてグループで話し合う。	各ページを拡大提示して歌の背景を説明する。気づいたこと、印象に残ったこと、疑問点を各自ワークシートにメモさせる。
4. 各グループの発表を聞く。	ホワイトボードにグループの意見をまとめさせる。印象に残った歌の魅力を原稿用紙340字から400字以内でまとめるので、グループの発表を参考にして、自分が詳しく調べたい歌を決めるよう指示する。	
5. 次回はコンテンツを使って各自調べ学習を行うことを予告する。	※一人一台タブレットのある環境であれば、すぐに調べ学習に入り、協働学習支援ソフトを活用して共通点や相違点について生徒間交流をさせてもよい。	